
若年性認知症 コールセンター

2013年 報告書



社会福祉法人 仁至会
認知症介護研究・研修大府センター

若年性認知症コールセンター 2013 年報告書 はじめに

65 歳以上の 15%の 462 万人が認知症、その予備軍である MCI は 400 万人。この衝撃的な数字が 2013 年 6 月に厚生労働省研究班の調査結果として報道されて以来、認知症 800 万人時代という用語までメディアに登場し認知症への社会的関心は一層の高まりを見せている。

国が目指す認知症施策の根幹である地域包括ケアは「住まい、医療、介護、予防・生活支援を一体的に提供するシステム」であり、それに基づき 2012 年 9 月に策定された認知症施策 5 年計画（オレンジプラン）では、行動心理症状などの危機が発生してからの従来の「事後的な対応」から、今後は危機の発生を未然に防ぐ「事前的対応」に転換することを宣言し、早期受診、早期診断を重視している。

こういう背景から若年性認知症は今後ますます注目を集めると考えられる。その理由は、認知症への関心の高まりは早期受診、早期診断につながり、そうなると 65 歳未満で診断されて若年性認知症に該当する人の数が増加すると推測されるからである。事実、大府センターに設置された全国唯一の「若年性認知症コールセンター」の 2012 年の報告では、本人からの相談が最多になり、その多くが自分は認知症かどうかという関心の高さを示す相談である。しかし認知症の人が「気づきから医療機関を受診するまでの期間」をみると、55.2%の人が 1 年以上、そのうち 20%の人は 3 年以上かかっているのも現状である。関心の高まりはこの期間を短縮すると期待される。

アルツハイマー病の原因物質であるアミロイドベータとタウの脳への蓄積を示す画像として、アミロイド PET に次いで、タウ PET が 2013 年に開発され、発症前診断も可能な時代が近づいた。

こういう状況の中、当コールセンターの役割はどうあるべきか。ご本人やご家族の相談満足度とそれに伴う相談件数を上げることは当然のことであるが、それだけでなく、若年性認知症に関する情報を集約し、それを全国に発信することが役割の一つかと考えている。ご本人・ご家族の方だけでなく、その支援者や地域包括ケアに係わる都道府県や区市町村の行政の関係者にも利用して頂けるシステムを目指す必要があり、その一環として若年性認知症コールセンターのホームページの充実が重要だと考えている。

2014 年 3 月

社会福祉法人仁至会 認知症介護研究・研修大府センター
センター長 柳 務

CONTENTS

はじめに

I 若年性認知症電話相談の概要

1. 若年性認知症電話相談とは

1) 対象地域	2
2) 相談形態	2
3) 相談時間	2
4) 電話相談員	2

2. 2013年の主な活動

1) 内部研修	2
2) 外部研修	2
3) 見学研修	4
4) 広報活動	4

II 若年性認知症電話相談の実態

1. 全体の状況

1) 月別相談件数	6
2) 発信地域	6
3) 相談時間	7
4) 相談形態	7

2. 相談者の状況

1) 相談者の内訳	8
2) 親族からの相談者の内訳	8
3) 相談者の性別と年代	9
4) 複数介護者の割合	10
5) コールセンターを知った媒体	10
6) 相談回数	10

3. 介護対象者の状況

1) 性別と年代	11
2) 介護対象者の暮らし方	11
3) 配偶者の有無と子どもの数	12
4) 認知症の有無	12
5) 「認知症あり+濃い疑い」の場合の相談者	13
6) 気づきから受診日まで、および受診日から相談日までの年数	13
7) 告知の有無	14
8) 合併症の有無	14
9) 社会資源の利用状況	15
10) 介護保険申請状況	15
11) 要介護度	16

12) 介護サービスの利用状況	16
13) 虐待と BPSD の内容	17
14) BPSD の有無と介護サービス利用状況	17
15) 相談内容と主な相談内容の相談者	18
16) 要介護度と相談の介護の悩みの内容 (複数回答)	19
4. 相談員の状況	
1) 相談員の対応	19
2) 相談の難易度	20
3) 傾聴の度合い	20
まとめ	21

III 相談事例

1. 若年性認知症に特徴的なご本人・ご家族からの相談

1) 介護について①～④	24
2) 経済的なことについて①～③	28
3) 病院・施設について①・②	31
4) 社会制度について①・②	33
5) 遺伝について①・②	35
6) 運転について①・②	37
7) 人間関係について①・②	39

2. 夫の認知症と向き合って

1) 退職後ボランティアに光	41
2) 離婚を考えた時期を乗り越えて	43
3) 夫の認知症を受け入れられない	45

3. 妻の認知症と向き合って

1) 入所の妻に思うこと	47
2) 妻はずっと在宅で介護したい	50

IV 若年認知症に関する、認知症介護研究・研修大府センターの取り組み

1. 若年性認知症ハンドブックの作成	54
2. 第4回若年性認知症施策を推進するための意見交換会	56
3. 若年性認知症研修会	60

V 電話相談について

2013年を振り返って	64
-------------	----

VI 資料